事例No.	1873
公表年度	R4
団体の属性	中核市
団体名	長崎県佐世保市

事例区分	公営企業

タグ	・交通事業 ・（行政改革）業務の効率化 ・組織改革

事例種類	民営化等

事例内容・タイトル

バス運行体制の一体化を柱とした公共交通再編

出典

公営企業の持続可能な経営の確保に向けた先進・優良事例集

【長崎県佐世保市】
バス運行体制の一体化を柱とした公共交通再編

民営化等 **交通事業**

長崎県佐世保市企画部地域交通課

● 取組概要

将来に向けた安定的なバス路線の維持を図るため、市営バスを廃止し、市営バス及び民間事業者2者の3者が競合していたバス運行体制の一体化を図った。

◆総事業費　調査費　29,153千円

◆背景

- 長崎県佐世保市は、交通手段におけるバス分担率が14％と非常に高い状況にある一方、中心市街地では複数系統が輻輳して競合状態にあり、人口減少や少子高齢化の進展に伴い、市内バス事業者3者（市交通局、西肥バス、させぼバス）の経営環境がともに厳しい状況にあった。
- この課題を解決するため、平成27年6月に佐世保市地域公共交通網形成計画を策定し、持続可能な公共交通網の形成に向けて、実施施策の検討を重ねた結果、競合路線の運行見直しを主としたバス運行体制の一体化を行うこととなった。

◆具体的内容

- 市交通局を廃止し、西肥バスに路線を集約した上で、その一部の運行をさせぼバスが受託することとした。
- 市内バス路線の運行本数を維持するための運転士確保策として、受託事業者のさせぼバスに旧市交通局のバス運転士を3年間派遣することとした（退職派遣制度）。

◆効果

- 競合路線の再編により、1便当たりの乗車人数が増加し、運行の効率性が向上した（再編前と比較し+11.4%）。《再編前（平成30年度）7.0人　→　再編後（令和元年度）7.8人》

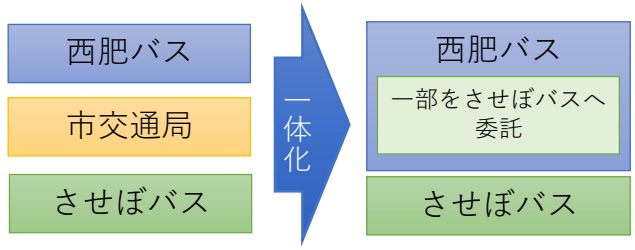
● 取組のポイント

- 運行体制の一体化及び路線集約に併せ、次のとおり持続可能な事業運営のための対策を実施し、利用者の利便性が向上した。
  - ① 利用状況に合わせたダイヤ、路線、経由地の整理、サービスの見直し
  - ② 昼間の時刻表の等間隔化
  - ③ 全国共通ICカードの導入
  - ④ 駅前に点在していたバス乗り場の統一

● 公営企業情報

- 行政区域内人口　239,386人（令和4年1月1日時点）
- 行政区域内面積　426.01km²（令和4年1月1日時点）
- 営業路線　なし（平成30年度末に市交通局廃止）

バス路線の再編イメージ



● 取組のスケジュール

- 平成27年6月に佐世保市地域公共交通網形成計画を策定。
- 様々な検討を経て、平成28年度にバス運行体制一体化に向けた協議を開始。
- 平成29年2月から行った住民説明会での意見やバス運転士不足等の現状を受け、平成29年度にバス運行体制の一体化を決定
- 平成31年3月に佐世保市地域公共交通再編実施計画を策定。バス運行体制を一体化し、市交通局を廃止。
- 令和4年2月で再編実施計画の期間が終了。その成果について利用状況の分析等を行い、令和4年3月に「佐世保市地域公共交通持続化実施計画」を策定した。

● 今後の展望

- 市内全域において将来にわたって持続可能な公共交通の維持を目指す。